

ALHΘEIA

豊橋技術科学大学附属図書館報

電子ジャーナルの導入について／竹園茂男.....	1
図書館の利活用について／永特 仁.....	2
感真受実／西宮伸幸.....	2
私と図書館／長野弥生.....	3
図書館の学生との調和／堀 義明.....	3
文献情報ガイダンスを実施して／中野洋子.....	4
図書館利用に関するアンケート結果.....	5
図書館の利用状況.....	11
TUT-L NEWS.....	12

特集 図書館の利活用 — アンケート集計結果報告 —

電子ジャーナルの導入について

竹園茂男

全国の図書館の電子化が進められている。一口に電子化と言ってもいろいろな段階がある。単に一つの図書館の図書情報の検索が学内からできるものから、全国の図書館同士がインターネットでつながり、ほかの図書館にある書物まで検索できるもの、さらに、書物の内容そのものが電子化され、わざわざ図書館に足を運ばなくても、どこかのパソコンからでもインターネットで自由にアクセスできるものまで考えられる。

日本図書館協会会長の長尾真京大学長の話によると、京大も参加している環太平洋大学連合では、目下、各大学を高速ネットワークで結び、図書館の相互利用や遠隔授業なども行えるシステムを構築中だそうである。またヨーロッパでも、国境を越えた国立図書館同士のネットワークづくりが推進されている。しかしながら、このような高度なネットワークが真に力を発揮できるのは、すべての図書館の蔵書の内容が電子化されたときであり、これには膨大な費用や著作権の問題が残されている。

本学の図書館の電子化に関する状況は、まだ初歩的な第一段階であるが、最近、電子ジャーナルの導入を検討している。現在、電子ジャーナルを提供しているのは、エルゼビア・サイエンス社 (Elsevier, Pergamon, North-Holland 等の雑誌を電子化) や Wiley Inter Science (Wiley 等の雑誌を電子化) 等であるが、ここにも東大等大規模総合大学の優位性は否定できない。というのは各出版社の雑誌 (冊子体) を一定数以上購読している大学

は、各出版社の出している全タイトル (エルゼビアの場合はおよそ 1200 種) へのアクセスが可能であり、料金的にも有利だからである。本学のような小規模大学の場合は、全タイトルへアクセス出来る契約は不可能である。しかし、いくつかの国立大学図書館が一つのグループ (連合体) を作れば、購読冊子体のタイトルへのアクセス権を互いに共有することにより、その参加国立大学が購読する全てのタイトルの電子的な相互閲覧が可能になる。

本学もぜひ近隣諸大学と協力して、一つのグループ (連合体) を作り、せめて雑誌だけでも、互いに閲覧可能なタイトルを増やしたいものである。現状では、国立大学図書館の雑誌購入額は、トップ 6 大学で総額の 50% を占めており、大学の規模の大小によって、情報収集力に大きな差が生じている。

本来、このような契約は国 (文科省) が一括して出版社と行い、全ての大学の研究者や学生が、所属する大学の規模の大小によらず、平等に全ての雑誌にアクセス出来るようにすべきものであろう。

尤も、情報収集力だけが能ではない。我々は、溢れる情報 (information) から真に価値あるものを抽出し、再構築してこれを知識 (knowledge) とし、さらに智慧 (wisdom) にまで高めなければならぬことは言うまでもない。

(附属図書館長)

図書館の利活用について

永 特 仁

昨年4月に本学に赴任してきて以来、私が図書館のサービスでもっとも恩恵を受けているのは、文献複写依頼と Swet Scan による新着情報であろう。どちらも私が 1988-1990 年の間ここで助手をしていた頃にはなかったサービスであり、Swet Scan は平成8年から、文献複写依頼は平成11年から利用可能になったそうである。

過去の文献の調査、新着雑誌の論文調査、文献複写などは大学で研究を行う上では必須の作業であるが、私の専門は離散アルゴリズムなので研究の理論的色彩が強く、この作業の研究活動における重要性はかなり高い。ところ変わればシステムも変わるもので、10年過ごした京大の数理工学教室では、新着の雑誌は十数種類をまとめて1つの木箱（ちょうど大き目の机の引出しくらいのもの）に入れて各教官の居室を回覧させていた。教官は秘書の運んできた木箱の雑誌に目を通し、複写を希望する論文があれば自分の名前を書いた附箋をつけて次の教官に木箱を回す。このやり方は、居室に居ながらにして新着雑誌を手にとることができるのでこの上なく便利である。しかし、ときおり回覧がどこかでどこにおり忘れた頃にやってくることもある。それと、10冊を超える雑誌を載せた木箱はかなり重く細腕の秘書さんには少し気の毒であった。一方、文献検索ではアメリカ数学会が作成した Math Sci Net (<http://www.ams.org/mathscinet>) という検索システ

ムが利用可能で、これは数学関係の論文のみ（といっても工学系のものも含みかなり範疇は広い）を対象としており私にはうってつけであった。

ところ変わり、現在、本学では先に述べた2つのサービスに大変重宝している。少し大きさに言えば私にとっての命綱であろうか。自分で登録しておいた雑誌の新着情報が定期的にメールで送られてくるので居室に居ながら最新情報を得ることができる。もちろん、雑誌自体を手にとることはできないが最近では（年季が入ってきたせい）自分の研究テーマに近い論文なら題名から大体の内容を推察できる。複写の必要なものは直ちに本学の文献複写依頼サービスを利用する。これも居室に居ながら作業ができるので大変助かる。ただし、本学所蔵の雑誌は自分で複写する必要があるが、こちらも本学の蔵書検索で調べればよい（主要な雑誌については蔵書情報のマイリストを作成してある）。恐る恐るあまり聞かない国際会議録の複写依頼を出しても図書館の方には丁寧に調査して頂き感謝している。ただ、これだけ便利なサービスがあるよと学生に言っているのであるがそれほど利用していないようである。図書館のホームページには文献検索に関するリンク情報もある。まだまだ活用されていない教職員、学生の方はどうぞお試しあれ。

（情報工学系教授）

感 真 受 実

西 宮 伸 幸

音は秒速 340 m で空気中を伝わる。稲妻が走ってからゴロゴロという音がするまでの時間を測れば、雷雲までの距離が計算できる。花火を見てフト気づいたのだが、2 km ほど先で打ち上げているはずなのに、天空にパッと開いてからドンと音がするまでの時間がイヤに短い。2秒ほどしか間隔が無いのだ。帰宅して冷静に考えたらヤツとわかった。稲妻のアナロジーがいけなかった。花火の音は天空に開いた時に出るのではなく、筒から発射された時に既に出ているのだから。

そこで標題の四文字熟語がヒラメいた。東奔西走、日進月歩等と同様の互文法の熟語であり、東西に奔走する、日月(月日)とともに進歩する、と同じ構成だから、真実を感受する、という意味である。知っているということ、現象が理解できるということとの間には距離がある。感真受実の能力を高めなければいけない。反省しつつ新規熟語を編み出した一夜となった。

ところで、文献検索のうまい人はキーワードの選び方やカラメ方がうまい。うまい人から良いアドバイス

を受けると心底感服する。スキルを身につけているというよりは感真受実ができていからうまいのだろう。検索すべきものが何なのか、それがまず頭の中にあり、それを顕在化させるためにキーワードを駆使する。まるでCTスキャンをとるようなものである。

知識と知恵は別物である。図書館には知識が詰まっているし、電子化、ネットワーク化で知識が増殖し、量的拡大を続けている。しかし、その知識を使う側に十分な知恵が備わっているだろうか。自分が設定した場に自分の問題を解剖して並べ、そこに知識を付加し、意味を持つ集合体を作り上げることができるだろうか。

自治体の図書館などでは、起業家を支援する、企業人に情報収集の場を提供する、という動きがあるという。はやりの言葉を使えば、ソリューションの提供、となろう。キーワード検索はひとつの例にしか過ぎない。大学の図書館は、感真受実を実行し、知恵が知識を総動員するプログラムを開発する場になっていい。

（物質工学系助教授）

私と図書館

長野 弥生

私は図書館という場所が大好きです。幼い頃は暇さえあれば図書館に通っていました。なぜなら図書館に行けば、タダで物語の世界へ飛んで行くことができるから。

流行の「おもちゃ」も「テレビゲーム」も持っていなかった私にとって、絵本を読んだり、読み聞かせてもらうことは一番楽しい『遊び』でした。

それから十数年経ちましたが、私は相も変わらず図書館に居ます。ただ、目的は大きく変わりました。

大学の図書館で一番使っているのは、図書館で貸し出しているノートパソコンです。これでインターネットに接続して課題を調べたり、レポートを作成しています。本を手取る時というのはたいてい、授業でよく分からなかった項目を調べたり、実験レポート作成の資料を探す時です。一番私が好きな『物語を読む』ということは、殆ど無くなってしまいました。これはとても残念なことです。

大学の図書館にはたくさんの資料が置いてありま

すが、一番驚いたのは、官公庁や団体が発行している様々な白書を見ることができることです。科学技術白書や環境白書は工科大学だから当然として、警察白書や学校白書、他にも「こんなのあるんだ!」というような白書がたくさん置いてあります。白書はなんだか堅苦しい資料というイメージを持っている方が多いと思いますが、読んでみるとなかなかおもしろいものです。ちなみに私のオススメは厚生白書です。カラフルなグラフや絵が多くてとても読みやすいですよ。

この大学の図書館はとても立派で資料や本も豊富なのに、テスト期間中以外はとても空いています。静かなのはいいのですが、なんだかもったいないように感じます。100%勉強に関する事のみ図書館を使うのではなく、自分の興味の向くままに本棚の間を歩いて、パッと目に飛び込んできた本を手にとってパラパラめくってみる。それが一番楽しい図書館の使い方だと思います。

(エコロジー工学課程学部3年)

図書館の学生との調和

堀 義明

夏休みに、母校である呉工業高等専門学校の図書館に行ってきた。利用するのに必要な部外者用登録カードを作った入館。夏休みということもあり、私以外の利用者は主婦らしき女性やご年配の方がちらほら居るだけ。広さはこの大学の図書館の1階分もないが、呉高専の図書館には同高専の4学科の勉強には十分な量の図書がそろっている。

思い出せば、私のレポート作成の時には全て図書館の本を利用し、自分で専門書を購入することはなかったように思う。たとえ卒論が始まって、専門書は全く購入せずに済ませた。また、一般の図書は適度に話題の本が定期的に入っていたので、勉強の合間に割と読んでいたように思う。これという好きな作家もいなかったもので、定期的に入ってくる図書館の本を、適当に選んだり、人に勧められるがままに読んでみたりといった具合だった。当時、私は陸上部に入っていたので、雑誌は毎月「陸上競技マガジン」をペラペラと流し読みしていた。この頃の私は、多少足りない読書欲に見合った、適度な量と適度な質の呉高専図書館に満足していたように思う。

現在、図書館を利用するのは希で、そのせいで頻繁に学生カードを持って行くのを忘れてしまい、研究室のある遠いG棟までイライラしながら余分に往復す

ることが多い。図書館まで多少の距離だが、最近ネット上から文献はダウンロードできるので、博士論文の文献調査など減多なことがなければ図書館まで行くことはない。高専学生時代に比べれば多少は金銭的に余裕があるし、読みたい時に読みたいので、欲しい専門書は図書館に同じ本があっても自分で購入してしまう。

最近の利用といえば、ある新聞記事を自分なりにまとめるための過去の新聞の閲覧である。自宅の新聞は一度読んだらすぐごみ回収に出してしまうので、図書館に過去の新聞が保存されているのは便利だ。同じ記事の、各新聞社での取り上げ方の違いを読み比べることができるので、さらに便利だ。

学生の図書館の利用は、電子化されない文献の閲覧、過去の新聞閲覧そして試験勉強、レポート作成のための勉強机としての利用に限られてきたように思う。

これら変化した利用方法に合わせて、一層の電子化と他大学とのネットワークの接続による地域差の縮小、一人で落ちついて利用できる機の拡充など、図書館がさらに変化すれば、学生生活の勉強・研究効率は向上するように思う。

(環境・生命工学専攻博士3年)

利用後は元の状態に戻し、鍵をカウンターに返却してカードを受け取ってください。

(3) OPAC (蔵書検索専用端末) (各階)

自由に利用できます。

(4) CD-ROM専用端末・CA専用端末 (1階)

利用の際は、カウンターに申し出て利用ノートに必要事項を記入のうえ、利用してください。利用後は、終了時間を記入してください。

7. 施設の利用

館内には以下の施設があります。利用を希望する際はカウンターに申し出て、所定の利用申込書に必要事項を記入の上、予約手続きをしてください。予約は先着順です。

なお、予約が入っていないときは、当日利用もできます。カウンターで手続きをしてください。

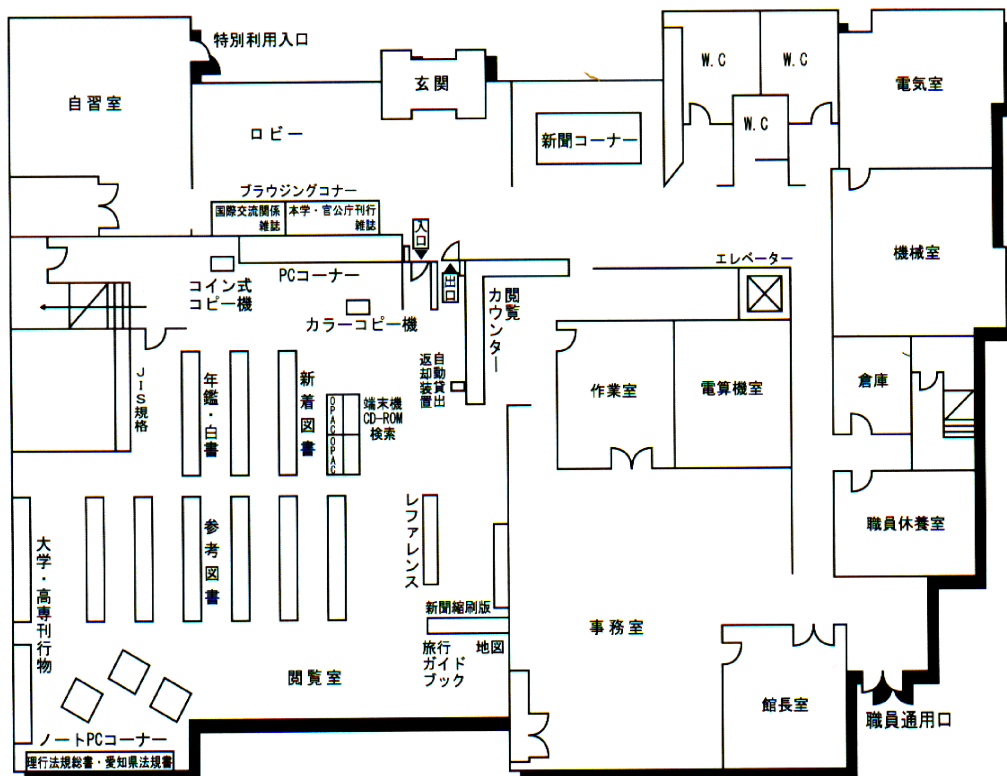
室名	室数	人数	設備	備考
研究個室	2	1		1週間以内
視聴覚個室	2	1	TV・VTR (VHS)	2時間以内
グループ研究室	1	23	TV・VTR (VHS)	2時間以内
小グループ研究室	1	5		3時間以内
PC 英語学習室	1	3	語学学習用 PC(DVDドライブ搭載) 3台	利用登録者
視聴覚室	1	16	TV・VTR (VHS) CD・LD・DVD・衛星放送	2時間以内
会議室	1	16		教職員のみ
自習室	1	24		利用は自由

その他、エントランスホールにはブラウジングコーナーがあり、新聞各種、本学及び文部科学省刊行物、国際交流関係雑誌、地方公共団体広報誌などの読み物があります。

勉学及び研究の合間の、休息の場所としてもご利用ください。

8. 図書館配置図

【1階 参考図書・カウンター・レファレンス・デスク】



図書館利用に関するアンケート結果

今回の図書館報は、「図書館の利活用」をテーマにした特集である。これに合わせて、図書館では「図書館利用に関するアンケート」を実施した。このアンケートを基に、利用状況及び図書館に対する要望等をまとめたので、若干のコメントを付して報告する。

まず、今回のアンケートは次の方法で実施した。

1. 実施日時：平成13年6月14日(木) 9時30分～17時
2. 対象：上記日時の図書館入館者全員
3. 実施場所：図書館玄関
4. 実施方法：アンケート用紙配付による記入方式
5. 集計結果：集計結果及びコメントは以下のとおり

[1] アンケート回答者数

① 学部学生	297 (78.2%)
② 大学院修士	48 (12.6%)
③ 大学院博士	14 (3.7%)
④ 教職員	16 (4.2%)
⑤ その他	5 (1.3%)
計	380(100.0%)

★ 学生（学部、修士、博士）の利用が圧倒的に多い。計359名で全体の94.5%である。学生の中では、学部学生が82.7%を占め、特に多い。これは、学部学生と大学院生の在籍者数を考慮に入れても、その比率を大きく上回っている。

研究室に配属が決まっていない学部学生が、学習、レポート作成、パソコン利用等で図書館を多く利用している現状が窺える。

因みに、前回アンケート（平成11年9月）では、学生（学部、修士、博士）の利用が全体の91.6%であり、その中の学部学生は71.5%であった。

「その他」の5名は、研究生、内地研究員、研究補助員等である。

[2] 図書館を利用する主な目的はなんですか。

(複数回答可)

① 図書の閲覧、貸出	310 (81.6%)
② インターネット	170 (44.7%)
③ 閲覧席での学習	162 (42.6%)
④ 新聞を読む	151 (39.7%)
⑤ 文献等のコピー	106 (27.9%)
⑥ パソコンの利用	92 (24.2%)
⑦ 文献検索	75 (19.7%)
⑧ 休息	51 (13.4%)
⑨ 文献複写の依頼	43 (11.3%)
⑩ 自習室の利用	37 (9.7%)
⑪ 施設利用	17 (4.5%)
⑫ CD-ROM検索	9 (2.4%)
⑬ その他	9 (2.4%)

★ 複数回答可ではあるが、入館者の80%以上が

「図書の閲覧、貸出」を目的にしている。図書文献の利用という従来型の図書館利用が最も多い。この関係もあり、図書充実の要望が非常に多く、各分野の専門書や文芸作品を含む一般図書、話題作の新刊書等の購入希望が多い。

「インターネット」と「閲覧席での学習」が次いで多い。いわゆる学習の場として図書館を利用している現状が窺える。特に試験期には学部学生が押し寄せ、館内は満席で飽和状態になる。その結果、雑談、飲食物の持ち込み、喫煙、携帯電話の使用など利用上のマナーを守らない者が増え、図書館の管理運営面で問題になることが多い。

新聞コーナーは利用率がかなり高い。今回のアンケートでも「新聞を読む」は39.7%である。講義の合間や昼休みは満席状態になる。本学には寮生が多く、新聞は図書館でという学生も多い。また、教職員も通りがかりに新聞をとというケースもかなりある。

「パソコンの利用」も多い。情報化の趨勢でもあり、図書館では現在29台のパソコンを利用者用として設置しているが、この台数では絶対数が不足し、需要を満たしていない。現在の情報化社会においては、情報収集や学習・研究においてもパソコンは欠かすことのできないものになっている。しかし、図書館におけるパソコンのあり方については、その位置付け、役割など充分検討する必要がある。その上で設置台数、設置場所等有効な活用方法を図っていききたい。

「文献検索」、「文献等のコピー」、「文献複写依頼」など研究活動に欠かすことのできない情報収集にもかなり利用されている。一方、科学技術文献速報が、Enjoy JOISの導入によりオンライン化され各研究室で検索できるようになったなど、資料の電子化により図書館に出向かなくても情報収集ができるようになったものもある。電子化の進展と図書館サービスのあり方、特に電子化情報を自在に活用し得る技術を修得してもらうため情報リテラシー教育を図書館が担っていく必要が生じてきている。

図書館を「休息」に利用する者も多い。ロビー

で雑誌を見たり、新聞コーナーで新聞を読むのも休息の一つかも知れない。本学には、学生が休息できるコーナーが余りなく、従って、図書館がその一つとして利用されているものと思われる。

「その他」は、③の学習に含まれると思われるが、テスト勉強、レポート作成、A L Cによる英語学習、等である。

次に各層別に利用状況を比較してみよう。全ての層に最も多い「図書の閲覧、貸出」と学習及び研究に余り関係のない「新聞を読む」を除くと、利用率の高いものは次のようになる。

1. 学部学生	(1) インターネット	53.9%
	(2) 閲覧室で学習	48.5%
	(3) パソコンの利用	30.0%
2. 大学院修士	(1) 文献等のコピー	41.7%
	(2) 文献検索	35.4%
	(3) 文献複写の依頼	29.2%
3. 大学院博士	(1) 文献検索	57.1%
	(2) 文献複写の依頼	50.0%
	(3) 文献等のコピー	28.6%

学部学生と大学院生との間では利用目的がかなり異なっているのが分かる。学習中心の学部学生と研究中心の大学院生の違いであろう。

なお、ここには示さなかったが、教職員等は大学院生と同傾向である。

【3】館内の情報コンセント（12口）を利用しますか。

- ① よく利用する 27 (7.1%)
- ② 時々利用する 30 (7.9%)
- ③ 今後利用したい 73 (19.2%)
- ④ 利用していない 249 (65.5%)

★ 館内には各階の閲覧室に4口、計12口の情報コンセントを設備しているが、このコンセントはパソコン持ち込み利用を想定して設備したものではない。従って、これまで特に設備として周知してきた訳でもないし、利用を奨励してきた訳でもない。

しかし、ノート型パソコンも普及し誰でも何処でもパソコンを利用する現状から、情報コンセントのあり方を検討する必要が生じてきた。

アンケートの結果は、設置場所を周知していないにもかかわらず、既に利用している者が15.0%もいる。また、「今後利用したい」と答えた者が19.2%である。なかでも、学部学生は「今後利用したい」までを含めると、利用する者が39.8%にもなっている。

コンセントが十分に設備されれば、パソコン持ち込み利用はごく普通のことになると思われる。

回答者のコメントに「どこにあるか知らない」と欄外に記載したものもあったが、これは図書館利用者の少なくない声とも思われる。

今後、情報コンセントの利用希望者が増大すると思われるが、図書館にその設備をどのような形で設けるか十分な検討が必要と思われる。

【4】図書館のホームページを利用しますか。

- ① よく利用する 40 (10.5%)
- ② 時々利用する 122 (32.1%)
- ③ 利用しない 218 (57.4%)

★ ホームページを「よく利用する」及び「時々利用する」で、42.6%である。かなりの利用率である。また、利用者を層別に見ると、学部学生36.0%、大学院修士64.6%、大学院博士85.7%、教職員56.2%であり、大学院生及び教職員の利用率が高い。

しかし、今回のアンケートは来館者に対して行ったものであり、図書館を利用しない者はホームページも余り利用していないのではないかとと思われる。

今後も、引き続き情報バリューの高い、利用価値のある内容に努力していきたい。

【5】今後図書館で充実してほしいものは何ですか。

- ① パソコン 234 (61.6%)
- ② レファレンス・サービス 62 (16.3%)
- ③ 電子関係資料 60 (15.8%)
- ④ ホームページ 13 (3.4%)
- ⑤ その他 38 (10.0%)

★ この設問では、内容を掲げるのは妥当でなかったかも知れない。回答者が思いつくそのままを書いていただいた方が良かったと思われる。入館者に入り口でお願いするアンケートであり、回答者の時間と労を省くためと考えたからであるが、それにしても掲げた項目が少なかった。

しかし、それにしても「パソコン」の要望が大変高く61.6%であった。学部学生に限って言えば、74.1%にのぼる。この要望は「【7】図書館に対する要望、意見等について」のところでも非常に多く出されている。この要望にどう応えていくか。パソコンの設置台数にも限度があり、情報コンセントの設備のあり方と共に検討する必要がある。因みに、大学院修士は27.1%、大学院博士は0%であった。ここでも学部学生と大学院生との違いが大きく表れている。

「電子関係資料」の充実が15.8%であった。この数字は、今回学部学生が8割近くを占めている

ことから全体では低くなっているが、大学院生ではかなり要望の高い事項である。各層別で比較すると、学部学生 9.1%、大学院修士 37.5%、大学院博士 57.1%である。また、教職員でも 31.3%とかなり高い率になっている。

今や工学系大学では電子化資料なしでは教育・研究が成り立たないのではないと思われる。特に電子ジャーナルは、最新情報が研究室で即座に入手できるなど情報収集に極めて有効と思われるが、高価で継続性のあるものであり、恒常的な予算の裏付けが必要であることもあって、教官研究費の減少や切り詰められた厳しい図書館経費の中では導入が極めて困難な状況にある。電子ジャーナルのあり方も現在まだ流動的な側面もあるが、その有効性から今後どのように導入を図っていくか積極的に検討していく必要がある。

「その他」が 10.0%である。ここにはその他充実してほしい事項を記入していただいた。ここに書かれた内容は【7】の要望、意見等と重複するが、簡潔に内容を紹介しておきたい。

要望の半数は図書、文献、資料の充実であった。専門書から一般書、雑誌までくまなく希望が出ており、特に「新刊書、話題の本、専門書以外の雑誌、図書の充実」という一般書の要望が多い。また、学術論文 (J.C.G., J.U.S.) の充実の声もあった。

次に多い事項としては、パソコンに関するものである。パソコンの台数、機種、バージョンアップと共にプリンターの故障及びカラープリンターの設置などの要望があがっている。

その他、閲覧席の増、個人機の充実、コピー機の増、LANへの接続端子、特別開館における空調、受付スタッフの増、また、図書整理の迅速化、等があり、現状で満足している、というものもあった。

【6】図書館員の対応 (サービス) について

① 良い	161 (42.4%)
② 普通	216 (56.8%)
③ 良くない	3 (0.8%)

★ この設問に対しては、厳しい回答が返ってくるものと予想していた。一生懸命努力していても利用者の目は厳しく、なかなか満足してもらえないものである。

結果は、「良い」が 42.4%、「普通」が 56.8%であった。「良くない」が 3名 (0.8%) で、これは全て学部学生である。[良い]を各層別に見ると、学部学生 36.7%、大学院修士 54.2%、大学院博士 85.7%、教職員 66.7%であった。学部学生と大学院生のこの違いはどうしてなのだろうか。

図書館としては、利用者の立場で可能な限り親切に対応している。これからも、遠慮なくカウン

ター、レファレンスなどに質問や要望、意見などをお寄せいただきたい。

【7】図書館に対する要望、意見等について

今回のアンケートに、図書館に対する要望、意見等を自由に書いていただく場所を設けた。そこに寄せられた要望等を以下にまとめた。

内容を分類整理し、事項ごとにまとめて見やすくしたが、回答者の気持ちも伝わるようにできるだけ書かれたままの形で掲載するようにした。従って、表現が適切でなかったり、意味が明確でないもの、また誤解や理解が不十分と思われる意見等もあるが、図書館利用において利用者が感じた生の声としてお読み願いたい。

なお、要望事項の文末の○数字は、同意見の回答者数を示している。

1 図書、文献

(1) 全般

- ・図書の種類、数ともにかなり貧しい①

(2) 一般書

- ・高専図書館は毎月新刊書が入っていた。この図書館ももう少し話題作などの新刊書を入れてほしい①
- ・話題作 (チーズはどこへ消えた、地図の読めない女、など) を入れてほしい①
- ・普通の本の購入①
- ・小説などの一般書を充実してほしい⑥

(3) 専門書

- ・電気・電子、数学、物理に関する図書を増やしてほしい②
- ・化学系の本を増やしてほしい①
- ・新しい工学書をもっと入れてほしい①
- ・医学、歯学分野の本を多く置いてほしい①
- ・情報系の図書が少なく個人的購入と文献複写でカバーしている。予算や需要のことは理解しているがなんとかしてほしい①

(4) 論文

- ・必要な論文が少なく、不必要な論文が多い、投票してみても?①

(5) 英語

- ・英語の本が少ない①
- ・英語の料理の本は一杯あるのに日本語の料理の本が少ないのはなぜですか①

(6) 雑誌

- ・雑誌が増えてくれたらありがたい①
- ・医学、歯学分野の雑誌を置いてほしい①
- ・英語の雑誌が少ない①
- ・娯楽性の高い雑誌 (Skier, Stereo, 諸君, サッカーマガジン, ベースボールマガジン等) は国費で購入するべきものではない①

- (7) 場所
- ・よく利用する3階の工学系資料を1階か2階に置いてほしい①
- (8) 新聞
- ・過去1ヶ月位は新聞を見たい①
- (9) DVD
- ・DVDは国費で購入するべきものではない①
- 2 電子化資料
- ・電子ジャーナルのIDEALを使えるようにしてほしい①
- 3 資料検索
- ・OPACの使い方を説明してほしい②
 - ・資料の検索がもっと使いやすくなってほしい①
- 4 パソコン、プリンター、情報設備
- (1) パソコン
- ・パソコンを新しくしてほしい⑨
 - ・パソコンの台数を増やしてほしい⑥
 - ・パソコンに自分のディレクトリがほしい①
 - ・館内パソコンでFLASHやJAVASCRIPTが使えるようにしてほしい①
 - ・DVD付きのパソコンを希望①
 - ・長すぎるパソコンの起動時間をなんとかしてほしい④
 - ・サーバが落ちてネットができないことがよくあるので何とかしてほしい①
 - ・ノートパソコンの机が狭く作業がやりにくいので広くしてほしい①
 - ・特別開館時でもノートパソコンを使いたい①
- (2) プリンター
- ・プリンターを修理してほしい⑦
 - ・プリンターを増やしてほしい①
- (3) 情報コンセント
- ・情報コンセントの利用方法を説明してほしい③
 - ・情報コンセントを多くしてほしい③
 - ・情報コンセントで使えないものがいくつもある、早急に修理してほしい①
 - ・情報コンセントを使ってもインターネットにうまく繋がらないことが多い①
- (4) 情報設備
- ・インターネットでのメール使用ができない②
 - ・ネットワーク回線を太くしてほしい⑤
 - ・F棟と図書館をLANで接続してほしい①
- 5 館内設備
- (1) 空調関係
- ・館内の蒸し暑さをどうにかしてほしい④
 - ・特別開館中にも空調を入れてほしい①
 - ・窓の開閉を自由にしてほしい(夏季の利用時は暑い)⑤
- (2) 設備改善
- ・退館ゲートの誤作動ブザーが鳴らないようにしてほしい①
 - ・個人機の蛍光灯が点灯しないことが多いので、チェックしてほしい③
 - ・館内照明を明るくしてほしい③
 - ・コピー機を増やしてほしい③
 - ・研究個室とグループ室の階を分けてほしい①
 - ・何度も傘を盗まれたので施錠付き傘立てを設置してほしい①
 - ・1階ラウンジを広くしてほしい①
- (3) 設備の新設
- ・ロッカーを設置してほしい①
 - ・休息場所がほしい①
 - ・喫煙室を作してほしい①
- 6 図書館運営
- (1) 図書館利用
- ・通常利用時と特別利用時の切り替えの際の一時退出をなくしてほしい③
 - ・入館ゲートをなくしてほしい②
 - ・自動貸出返却装置のメンテナンス時間(2~5時)を何とかしてほしい①
- (2) ホームページ
- ・図書館ホームページ上に学生利用状況照会のリンクがほしい①
- (3) その他
- ・月1回の休館時間帯(館内整理日)にラウンジの新聞が読めるようになったのは良い①
 - ・特別利用制度があるため、夜中にレポートを書いている時、急に資料がほしくなっても大丈夫で嬉しい。これからも続けてもらいたい①
- 7 利用マナー
- ・静かな図書館にしてほしい(テスト期間は特に騒がしい)③
 - ・うるさいと注意されることがある、しかし、職員もうるさい時があるので気を付けてほしい①
 - ・夜間の利用者が騒がしい③
- 8 広報伝達、インフォメーション
- ・閉館する時は事前に掲示してほしい①
- 9 図書館職員
- ・図書館員に良い人を集めてほしい①
 - ・十分活用している。今のままでよい。今後も頑張ってください④
- ★ 上記の要望及び意見等に対して、ここで全てにコメントすることは不可能である。そこで、紙数の関係からも主なものについて簡潔なコメントをするにとどめたい。
- 「図書の種類、数ともにかなり貧しい」という声があった。図書館全体を見ての感想と思う。本学は、昭和51年に設置された新設大学でまだ歴史も浅く、図書、文献も創立当初から充実に鋭意努力してきたが、まだ依然として不十分であることは否めない。しかし、これも一朝一夕に成し得る

ものではないので、予算の制約もあるが今後も引き続き充実に努力していきたい。

具体的分野に対する図書充実の希望も多く出されている。特に、一般書、教養書の充実の要望は強い。人文・社会科学、文芸書、話題作など一般教養書の充実も図書館としては重視している。しかし、この分野の図書は出版件数も膨大で選書も大変難しい。従って、利用者のみなさんの希望を中心に選書することも一方法であるので、希望のものがあればどしどし図書購入希望票を出していただきたい。

専門書は、基本的には各系の教官が推薦する図書を図書委員がまとめ、それをもとに購入している。しかし、専門書も利用者個人の希望として申し込んでいただければ選書委員会で検討し購入することができる。この分野においても図書購入希望票の提出を大いに期待している。

「論文」とは、学術雑誌の研究論文のことであろう。学術雑誌は図書館選書ではなく、各教官が自前の研究費で購入し、それを図書館に配架し利用に供しているものである。学術雑誌も研究費の厳しさから購入数が減少している。図書館としてはこの学術雑誌減少に危機感を抱いている。必要としながらも切らざるを得ない現状をどう打開していくべきであろうか。

「英語の本が少ない」という意見があったが、蔵書16万冊の4割は洋書で多くは英語の本である。一般教養書及び学生用図書に限って言えば英語の本は少ないかも知れない。しかし、選書においては留学生を念頭において英語の図書の充実も図っている。英語の料理の本は、留学生用の参考図書とご理解いただきたい。

一般教養雑誌の整備充実も大変難しい面がある。膨大な出版雑誌の中で何をどれだけ整備するか、予算の確保、各系推薦のバランス等もある。

今回、図書館配架一般教養雑誌の利用状況と図書館に備えてほしい希望雑誌について調査した。その結果を【8】に掲載した。今後この結果も参考に選書していきたい。

新聞は、過去1箇月は1階閲覧室で見ることができし、過去2年間は2階に保管されている。また、それ以前については、朝日新聞と中日新聞の縮刷版が用意されている。

電子化資料については、【5】で述べたような実状がある。電子ジャーナルの導入も予算上の問題、費用対効果、二次資料との兼ね合いなど種々問題がある。電子化資料の充実については大学院生や若手教官から多くの要望が日常的にも出されている。電子化資料の充実は、今後重点的に取り組むべき課題である。

OPACやCD-ROM、電子ジャーナルなど

資料検索について不明な点は、1階カウンター横のレファレンスでお尋ねいただきたい。そして、資料検索に習熟していただき教育研究に活かしていただきたいと思う。

パソコンについては、多くの要望が出されている。パソコンの更新や設置台数を増やしてほしいとの要望が最も多い。設置台数についてはその適正数を検討する必要があるが、バージョンアップを含めた機種更新については具体的に考えていく必要がある。また、パソコンの起動時間が長いのはセルフメンテナンスをしているからであり、DVD付きパソコンは館内の利用目的からみて相応しいものと思えない。各種ソフトのインストールについては、必要最小限と考えているが、研究、学習上必要なものについては検討していきたい。

パソコンに関しては、【2】及び【5】で既に述べたが、図書館におけるパソコンのあり方を確立し、その上で整備方針を立てる必要がある。何処にどれだけ整備し、その管理運用をどうするか、どのように運営したら利用者に有効かなど検討していきたい。

情報コンセントは、A2-101～103の講義室を開放してパソコン持ち込みで利用できるようになった。その利用状況等を見定めながら今後考えていきたい。

館内設備については、修理や補修は速やかに対処したい。機器や設備の増設はかなり難しい問題がある。空調については、特別利用時間帯の使用は管理面や予算面からも現状では困難である。また、窓の開閉も防犯上の問題があり、夏季の暑さには天窓を開けるなどで対処していただきたい。ロッカーの設置、休息場所、喫煙室等は、限られた館内のスペースでは場所確保が困難である。しかし、このような要望等があることを常に念頭に置いて図書館のあり方を考えていきたい。

図書館運営では、利用者の立場で常に利便性や有効性を考えているので、要望事項等については今後の運営に反映させていくよう努力したい。

利用マナーは日常的に注意指導しているが、違反者は後を絶たない。特に禁止3大事項は、①私語雑談、②館内飲食、③館内喫煙、である。図書館は共同利用の施設である。他の利用者に迷惑になる行為はしない、また、そういうことに気配りできる人になっていただきたいと思う。

閉館等のお知らせについては、かなり早くから館内、系掲示板、学生ホール、ホームページ等で行っている。所定の各種掲示等を見る習慣を身に付けていただきたい。

以上、要点のみコメントしたが、個々の具体的事項については、追って進捗状況及び実施結果などご連絡したいと思っている。

【8】一般教養雑誌の利用状況

今回、一般教養雑誌（学会誌、専門誌、学術雑誌を除いたもの）について、その利用状況を尋ねた。

また、併せて図書館に備えてほしい雑誌について

も書いていただいた。予想以上の広範な希望が寄せられた。

この結果も今後の雑誌選定の参考にしていきたい。

1. 一般教養雑誌の利用状況（数字は利用者数）

<input type="checkbox"/> ASCII	75	<input type="checkbox"/> エコノミスト	12	<input type="checkbox"/> 週刊朝日	16	<input type="checkbox"/> 日経パソコン	35
<input type="checkbox"/> BT:美術手帖	14	<input type="checkbox"/> 科学	3	<input type="checkbox"/> 週刊朝日百科	0	<input type="checkbox"/> 日経メカニカル	8
<input type="checkbox"/> CG car graphic	39	<input type="checkbox"/> 化学と教育	8	<input type="checkbox"/> 週刊サッカーマガジン	41	<input type="checkbox"/> 日本カメラ	12
<input type="checkbox"/> Dos / v magazine	63	<input type="checkbox"/> 化学と工業	8	<input type="checkbox"/> ジュリスト	0	<input type="checkbox"/> バンドジャーナル	7
<input type="checkbox"/> Interface	14	<input type="checkbox"/> 技術と人間	6	<input type="checkbox"/> 情報の科学と技術	1	<input type="checkbox"/> 文学	1
<input type="checkbox"/> JTB 時刻表	36	<input type="checkbox"/> キネマ旬報	17	<input type="checkbox"/> 諸君	6	<input type="checkbox"/> 文藝春秋	10
<input type="checkbox"/> Maclife	8	<input type="checkbox"/> 教育と情報	0	<input type="checkbox"/> 数学セミナー	9	<input type="checkbox"/> ぶんせき	6
<input type="checkbox"/> Mini-World	3	<input type="checkbox"/> 暮らしの手帖	5	<input type="checkbox"/> 数学セミナー 増刊	5	<input type="checkbox"/> 分析化学	7
<input type="checkbox"/> National geographic	13	<input type="checkbox"/> 経済セミナー	1	<input type="checkbox"/> 数学セミナー 別冊	5	<input type="checkbox"/> ベースボールマガジン	23
<input type="checkbox"/> Newton. 別冊	41	<input type="checkbox"/> 藝術新潮	5	<input type="checkbox"/> 数理学	7	<input type="checkbox"/> 別冊数理学	1
<input type="checkbox"/> Newton	52	<input type="checkbox"/> 月刊言語	1	<input type="checkbox"/> 世界	6	<input type="checkbox"/> 別冊太陽	7
<input type="checkbox"/> Outrider	3	<input type="checkbox"/> 月刊自家用車	25	<input type="checkbox"/> 旅	11	<input type="checkbox"/> 別冊日経サイエンス	7
<input type="checkbox"/> Skier	5	<input type="checkbox"/> 月刊地球	3	<input type="checkbox"/> 中央公論	5	<input type="checkbox"/> 別冊文藝春秋	0
<input type="checkbox"/> Stereo	10	<input type="checkbox"/> 月刊天文	2	<input type="checkbox"/> テニスマガジン	13	<input type="checkbox"/> モダンリビング	4
<input type="checkbox"/> Surfing world	1	<input type="checkbox"/> 月刊文化財	1	<input type="checkbox"/> 日経エレクトロニクス	21	<input type="checkbox"/> 山と溪谷	9
<input type="checkbox"/> Time	12	<input type="checkbox"/> 原子力 eye	22	<input type="checkbox"/> 日経サイエンス	20	<input type="checkbox"/> ラグビーマガジン	8
<input type="checkbox"/> Tokyo Journal	3	<input type="checkbox"/> 建築雑誌	22	<input type="checkbox"/> 日経ネットビジネス	7	<input type="checkbox"/> 陸上競技マガジン	11
<input type="checkbox"/> Voice	2	<input type="checkbox"/> 思想	1	<input type="checkbox"/> 日経バイト	8	<input type="checkbox"/> 理系への数学	8

2. 図書館に備えてほしい雑誌

<input type="checkbox"/> トランジスタ技術	6	<input type="checkbox"/> Mac Power		<input type="checkbox"/> オレンジページ		<input type="checkbox"/> 岳人	
<input type="checkbox"/> C マガジン	3	<input type="checkbox"/> AERA		<input type="checkbox"/> Model Art		<input type="checkbox"/> スキージャーナル	
<input type="checkbox"/> Linux magazine	3	<input type="checkbox"/> 週刊文春		<input type="checkbox"/> Armer model		<input type="checkbox"/> imidas	
<input type="checkbox"/> UNIX USER	2	<input type="checkbox"/> 月刊バスケット		<input type="checkbox"/> The Economist		<input type="checkbox"/> ラジオライフ	
<input type="checkbox"/> SAPIO	2	<input type="checkbox"/> バドミントン		<input type="checkbox"/> Cycle sports		<input type="checkbox"/> オーム	
<input type="checkbox"/> CQ Ham Radio	2	<input type="checkbox"/> バレー		<input type="checkbox"/> JAZZ - Life		<input type="checkbox"/> 月刊秘伝	
<input type="checkbox"/> 週刊ベースボール	2	<input type="checkbox"/> Veja(ブラジル雑誌)		<input type="checkbox"/> トライアスロンマガジン		<input type="checkbox"/> ムー	
<input type="checkbox"/> ロボコンマガジン		<input type="checkbox"/> Istoe(ブラジル雑誌)		<input type="checkbox"/> JJ		<input type="checkbox"/> バリバリマシン	
<input type="checkbox"/> English Journal		<input type="checkbox"/> 建築文化		<input type="checkbox"/> Smart			
<input type="checkbox"/> 天文ガイド		<input type="checkbox"/> 週刊 ASCII		<input type="checkbox"/> 週刊金曜日			
<input type="checkbox"/> F1 グランプリ特集		<input type="checkbox"/> ワールドサッカーグラフィクス		<input type="checkbox"/> 住宅建築		<input type="checkbox"/> 自動車雑誌	4
<input type="checkbox"/> 日本ロボット学会誌		<input type="checkbox"/> グループ		<input type="checkbox"/> atu		<input type="checkbox"/> 映画雑誌	3
<input type="checkbox"/> 人工知能学会誌		<input type="checkbox"/> remix		<input type="checkbox"/> 月刊アーキテクチャー		<input type="checkbox"/> 音楽	2
<input type="checkbox"/> Reders Digest (英語版)		<input type="checkbox"/> 将棋世界		<input type="checkbox"/> 東京人		<input type="checkbox"/> 男性誌	
<input type="checkbox"/> 日経ソフトウェア		<input type="checkbox"/> Far East Economic Journal		<input type="checkbox"/> 一個人		<input type="checkbox"/> Computer Graphic 系	
<input type="checkbox"/> アサヒカメラ		<input type="checkbox"/> Java World		<input type="checkbox"/> DTM magazine		<input type="checkbox"/> ゲーム	
<input type="checkbox"/> 読売 Weekly		<input type="checkbox"/> サウンド パル		<input type="checkbox"/> 電験		<input type="checkbox"/> 格闘技	
<input type="checkbox"/> ホトメカニック		<input type="checkbox"/> PC USER		<input type="checkbox"/> オートメカニック		<input type="checkbox"/> バイク雑誌	
<input type="checkbox"/> きょうの料理		<input type="checkbox"/> HOT DOG		<input type="checkbox"/> BOON		<input type="checkbox"/> パソコン	
<input type="checkbox"/> デザインウェーブ		<input type="checkbox"/> ファミ通		<input type="checkbox"/> Case Brutu			
<input type="checkbox"/> Mac Life		<input type="checkbox"/> ACS		<input type="checkbox"/> 本の雑誌			

【9】まとめ

今回のアンケートは、380名の皆さんの協力を得た。玄関入口で、入館者に対してその場でお願いしたということもあって、十分な考慮検討時間もなかったと思われるが、その分率直な意見等を伺うことができたのではないかなと思う。これらの意見、要望等を聞きっぱなしにならないよう図書館の改善に努力していきたい。

今回は、アンケートにより意見、要望等をお聞きしたのであるが、図書館には各階に意見、要望等を投函できるボックスが常設されている。日常の図書館に対する意見、要望等、または購入を希望する図書なども、このボックスを活用していただきたい。また、直接カウンター又はレファレンス、館内図書館職員に申し出ていただいても結構である。みなさんからの要望等には極力意に沿うよう頑張っていきたいと思っている。

最後ではあるが、今回のアンケートにご協力いただいた皆さんに感謝申し上げたい。

図書館の利用状況

項目／年度	平成 10 年度	平成 11 年度	平成 12 年度	項目／年度	平成 10 年度	平成 11 年度	平成 12 年度
蔵書冊数 (冊)	146,747	153,035	162,765	依頼 (件)	7,372	6,621	6,386
和書	88,473	92,072	100,234	大学	7,052	6,126	5,871
洋書	58,274	60,963	62,531	その他	320	495	515
うち参考図書	8,328	9,004	10,952	依頼のうち校費分	6,794	6,428	5,580
研究図書	25,776	28,238	32,594	1系	197	334	201
製本雑誌	35,403	36,813	38,374	2系	801	892	864
年間受入冊数 (冊)	4,750	6,288	8,423	3系	627	337	333
和書	2,662	3,599	5,644	4系	560	722	633
洋書	2,088	2,689	2,779	5系	1,775	1,464	1,463
蔵書雑誌タイトル数 (種)	3,320	3,640	3,907	6系	109	82	96
和雑誌	1,859	2,140	2,373	7系	288	399	175
洋雑誌	1,461	1,500	1,534	8系	1,911	1,566	1,401
年間受入雑誌タイトル (種)	1,239	1,216	1,247	9系	29	144	24
和雑誌	759	811	828	その他	497	488	390
洋雑誌	480	405	419	オンライン情報検索 (件)	131	206	113
入館者数 (人)	165,595	160,674	142,890	JOIS	41	13	5
うち学外利用者	673	1,189	1,144	STN	63	151	67
うち特別開館入館者数	33,335	42,109	37,873	NACSIS	18	41	40
うち閲覧室利用者	32,550	40,808	36,842	DIALOG	9	1	1
館外貸出冊数 (冊)	31,814	35,216	30,740	参考質問 (件)	2,235	1,668	1,518
施設利用者数 (人)	4,095	4,297	3,262	所在	469	326	273
学内複写				内容別 事項	506	557	197
白黒 (枚)	66,719	69,962	87,358	利用	1,260	785	1,048
カラー (枚)	26,981	11,062	10,909	教官	501	350	258
リーダー (件)	22	27	37	身分別 職員	144	69	46
プリンター (枚)	274	339	288	学生	1,488	1,193	1,108
学外施設利用 (件)	23	17	11	学外	102	56	106
図書貸借				口頭		1,494	1,351
受付 (冊)	264	366	313	形式別 電話		117	76
国立大学等	236	321	280	文書・メール		57	91
私立大学	28	45	33	外国雑誌目次データベース (件)	10,460	1,994	825
依頼 (冊)	186	128	146	雑誌検索	1,526	780	801
国立大学等	174	122	134	論文検索	8,934	1,214	24
私立大学	12	6	12				
文献複写							
受付 (件)	4,239	4,803	3,782				
大学	3,886	4,092	3,442				
その他	353	711	340				

- | | |
|-----------------|---|
| 13. 4.20 | 東海地区国立大学図書館協議会総会（会場：愛知教育大学）
出席者 附属図書館長，図書課長 |
| 13. 4.26 | 豊橋市図書館協議会（会場：豊橋市中央図書館）
出席者 附属図書館長 |
| 13. 5.29 | 国立大学附属図書館事務部課長会議（会場：東京医科歯科大学）
出席者 教務部長，図書課長 |
| 13. 6. 1 | 愛知図書館協会定期総会（会場：愛知県図書館）
出席者 図書課長 |
| 13. 6.15 | 東海地区国立大学図書館長懇談会（会場：名古屋大学）
出席者 附属図書館長 |
| 13. 6.27
～28 | 国立大学図書館協議会総会（会場：北海道大学）
出席者 附属図書館長，教務部長，図書課長 |
| 13. 7.27 | 東海地区大学図書館協議会総会・研究集会（会場：三重大学）
出席者 図書課長 |
| 13. 8. 2 | 豊橋市図書館協議会（会場：豊橋市中央図書館）
出席者 附属図書館長 |
| 13. 8. 2
～3 | 電子ジャーナル・ユーザー教育担当者研修会（会場：名古屋大学）
参加者 学術情報係長 中野洋子 |
| 13. 8.29
～31 | 図書館等職員著作権実務講習会（会場：神戸大学）
参加者 情報サービス係 鈴木明美 |
| 13. 9. 7 | 新 CAT/ILL システム説明会及び学術雑誌総目録欧文編データ更新説明会
(会場：名古屋大学)
参加者 情報サービス係 鈴木明美 |
| 13. 9.13
～14 | 大学図書館研究集会（会場：一橋大学）
参加者 学術情報係長 中野洋子，情報管理係 黒柳裕子 |

“ΑΛΗΘΕΙΑ”

図書館の入り口の壁に掲げられている銘板のギリシャ文字 “ΑΛΗΘΕΙΑ”（アレーテイア）は、「真理」を意味します。

表紙デザイン

この表紙のデザインは、野澤隆秀氏（本学卒業生・前建設工学系助手）によるものです。

豊橋技術科学大学附属図書館報「ΑΛΗΘΕΙΑ」第22号 平成13年10月1日

■編集・発行 豊橋技術科学大学教務部図書課

■〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1 TEL.0532-44-6562 FAX. 0532-44-6566